

月報

<459号>

ケルンボン日本語
キリスト教会
二〇二三年二月二十七日

「自分の中に折れ曲がる姿」

佐々木 良子

二〇二三年を振り返ると、世界は刻々と不穏な方向へと変化し続けているように思えます。一方で、この世とは対照的に、「草は枯れ、花はしぼむがわたしたちの神の言葉はとこしえに立つ。」(イザヤ書四〇章八節)との約束通り、神さまの確固たる御言葉は永遠に変わることなく、現代に希望のメッセージを送り続けてくださっています。

そして、二千年以上前と変わることなく、今年もクリスマスにイエス・キリストという救い主を送ってくださいました。しかしこの世は、古の昔から、イエスさまというかけがえないプレゼントを受け取るうとはしません。神さまの御思いに心を向けようとしません。

イエスさまがお生まれになった時の状況は、「宿屋には彼らの泊まる場所がなかったからである」(ルカによる福音書二章七節)と記されています。宿屋にいた人々は誰一人として、身重のマリアに宿を提供しようとはしませんでした。皆、自分のことで精一杯なのです。

このような人間の姿を宗教改革者のルターは的確に指摘しています。人間の罪は、「自分の中に折れ曲がる姿」と表現しました。人は何をしても、最後は自分の為にというように、全てが自分に向かって折れ曲がっているのです。

ある女性が自分の子供の頃のクリスマスの出来事を思い出して書いた、「ロバートおじさんの

贈り物」というクリスマスの物語があります。

ロバートおじさんから毎年二月一日に、五〇〇ドルの小切手を送られてきました。昔の話ですが、おそらく一〇万円位になるでしょうか。それがクリスマスに待ちこがれた大きなプレゼントでした。

それを家族で分けて、みんな何を自分の為に買おうか、楽しみにするのがクリスマスのならわしでした。ところが年、小切手の代わりに、品物が届いたのです。そこには手紙が添えてありました。「クリスマスに小切手ではなく今年はプレゼントを贈る事にした。みんなが気に入ってくれるように祈る。」という内容でした。受け取った家族は愕然としました。

しかし、送られてきた小包をツリーの下に置いて、何が入っているのか楽しみにしていました。二五日の朝、それをみんなで開けて、更に愕然としたのです。いかにも高価なものばかりで牧師の家庭には不向きな物ばかりでした。

お父さんは、洗礼式用にと靴を買う事を決めていたのに、受け取ったのはレジャー用のジャケツトでした。レジャーなんてお父さんにはお金以上に無縁なものでした。

お母さんは、今年はミシンがほしいと思っていましたが、ワニ革の高級なハンドバックでした。これは滑稽なまでも不釣り合いでした。家族みんなで唾然として、言葉が出ません。その時、お父さんは立ちあがってこう言ったのです。

「みんな聞いてくれ。私たちが何を必要として何をほしがっているのか、ロバートおじさんはちっとも分かっていないとみんなは思っているだろう。だが、お父さんはむしろ、分かっているのは私たちの方ではないかと思う。」

みんな知っているように、叔父さんは一人暮らし。だから毎年クリスマスになっても、私たちが家

族のようにみんながいたりするわけではない。ところが今年には私たちの為に買い物に行ってくれた。そしてみんなは何がほしいのだろうか、一生懸命考えてくれたのだと思う。お父さんが買ったジャケットは、忙しい中で、少しでも時間を取るようにと考えてくれたのだと思う。「話はもう少し続きますが、これで分かると思います。」

私たちは人から物をプレゼントされる時ですら、それを贈ろうとした人の気持ちまで殆ど考えていないのです。贈り物を受け取る時でさえ、自己中心的な者だということを見せている物語です。

このようにいつも自分のことしか考えない私たち。正にルターが指摘している通りです。そして神さまの御思いも考えず、イエスさまを拒否する世界です。にも拘わらず、毎年クリスマスはやってきます。そしてこの頑なな世界の戸を叩き続けてくださっています。このような自己中心的な人間を神さまは諦めないという事です。返事がなくとも叩き続けてくださっています。

「自分の中に折れ曲がる」私たちの現実の中で共に生きるためにイエスさまがこの世へと誕生されたのがクリスマスの出来事です。



千羽鶴が舞うクリスマスツリー

一年間を振り返って

小川オスナー 良子

クリスマスおめでとうございます。この時期、居間に飾ったもみの木の香りに癒されています。アドヴェント中は息子のクリスマスコンサートに予定に合わせ、あわただしく過ごしました。ドイツの一五歳の忙しさ(フレイクダンス、コンピュータゲーム、週末のパーティー、合唱、バイオリン、放課後の学童保育のバイト等)は日本と違いすぎるのですが(その中に勉強が入っていない)、その一方で、学校からの課題で彼の学年はそれぞれ興味のある分野で三週間の職業体験実習(Praktikum)を経験し、彼は銀行の顧客サービス課でATMにお金を補充したり、窓口で接客をしたり、初めての経験をしてきました。毎朝ワイシャツを着て出かけていく姿を見ると、巣立ちももつすぐかな、と思います。私の方は五〇歳を過ぎてアトピー性皮膚炎に悩まされ、今一度食事や生活習慣を見直さなくては、と思うこの頃です。

加納美巴

四月一日に閑空から飛行機に乗った私は、気が付けばデュッセルドルフでの生活が八か月を超えています。実は、私はドイツに来ることができると分かったときから、「どうして神様は私がドイツに行くことを許してくださっているのだろうか?私はいみじたい、遊びたいと自分の事しか考えていないの」と、何か不思議な、腑に落ちないような気がどこかにありました。ところが、神様は次々と道を備えてくださいました。

日本語教会へ来れば、名前の分からない野菜や果物の食べ方から、ちよっとした暮らしの知恵をすぐに教えてもらえました。語学学校でできた友人達とは、同じように右も左も分からない町で得た情報を共有しながら、楽しい時間を過ごしています。でもやはりそれだけではありません。

神様は、私のこれまでの経験を活かした新しい仕事を日本人学校に準備してく



ださったのです。私はまさか、ドイツで自分の経験が役に立つ日が来るとは全く考えもしていませんでした。「なぜ?私が!?!」と思う場面の連続でもありませんでしたが、その一方で背中を押されている不思議な力を感じました。ああ、これが「計り知れないご計画」というものなのかと。

ドイツの街々で訪問した数多くの教会。入るといつも感じる「わたしはある」というメッセージ。あと少しの間ですが、できるだけ多く心に満たして日本に持って帰りたいと思います。

加納和寛

二〇二三年四月より勤務校から一年間の研究休暇をいただいてドイツに滞在しています。佐々木牧師はじめケルン・ボン教会の皆さまとの交わりの中で多くの恵みをいただいております。

ふだんはドイツ語の環境で神学を学んでいますが、日曜日に日本語教会へ行くこと、同じ信仰であるにもかかわらず、ドイツのキリスト教のあり方とは異なっていた観点から多くのことを気づかせていただけです。単に言語の違いだけではなく、文化や伝統などを含めたさまざまな要素と信仰との関わりについて教えられる日々です。

加納美巴

この教会は日本人だけで閉じているのではなく、ドイツ人はもちろん、さまざまな背景を持つ方々が交流する豊かな集まりとして用いられていると感じます。神さまがこの教会をますます祝福してくださいませよう、心から祈っております。

神野久美子

九月の終わり頃以前勤めていた学校のあるクラス(中三から二年)の同窓会に招待されました。九年(中三から二年)副担任を務めたという記憶しかなく正直行くかどうか迷いました。でもあの子たちがどうい大人になってるのか見てみたいという好奇心で出席する事にしました。

私は学校側としていろいろ嫌な役目も引き受けましたので生徒たちの反感を買っていたという自覚もあり当日は緊張して出かけました。でも参加して良かった。たくさん写真を見せての思い出話にいろいろなわだかまりが消えていくのを感じました。当時のお祈りが二〇年後にかなえられました。主にただただ感謝です。

金ジョンホ・聖恩

一年を振り返ってみると人の考えや計画など神様の前ではあまり意味を持たないことをまた習った年でした。私達夫婦は今年の春から新たな仕事(スタウト)しました。そして私は秋には、働きながら牧師になるための勉強も始めました。

教会では皆様と一緒に捧げる礼拝も、喜びで担う子どものメッセージや奏楽等の奉仕も全てが感謝に溢れた一年間の教会生活でした。神様はいつも私達を最善の道へと導いてくださることは時間が経てば分かることが多いです。来年はもっと霊的に敏感になって神様の心を早くキャッチして、更に喜びの中で歩める一年になればと思います。最後に今戦争や自然災害など色々な苦しみ辛さを覚えている人々に主の憐れみが注がれることをお祈りします。良いクリスマスをお過ごしください!

佐藤グループ 道子

数年のコロナ体制から解放され、今年はReSoSo (回復のためのスポーツ)を中心に自分の健康維持をおもに考えての日々の中にあり、二つの大きな経験が与えられました。この二つの出来事は、体力の衰えを強く感じ、一抹の寂しさを感じていた矢先に、勇気が与えられたのです。先ずフランクフルト教会の方々の修養会に参加でき、これからのヨーロッパに於ける日本語教会の将来を信徒の交わりを通して、共に考える事ができました。

二つ目は、秋に近所の知り合いから Adventmarkt (待降節の市) を企画するにあたり、是非日本的な物で参加して欲しいとの依頼を受けました。それと言ったのもきつ



けは、私は彼女からいつも何かと頂いていたので、お礼として千代紙の模様の小箱に折鶴を入れてさしあげたところ、とても喜ばれました。彼女が日本の文化に興味を持っていて、事に気がつきました。考えた末結局この村 Junkersdorf の長い住民の日本人の三人の方々の助けを借りて Papeküst 折り紙を紹介することになりました。今年は例年の大々的な市と変わって、こじんまりと今は礼拝には使われていない Dotzliche (村の教会) を会場として第一アドヴェントの週末に市が開催されました。特に人気があったのは、折り紙と一緒に折ったことでした。折りながら色々な話題が出て、近所の方々と身近に言葉交わすことができ、日本がこの村に一步步近づいた様にも思えます。この市の収益は Fair Trade と関係のあるブラジルの団体に寄附され、我々も僅かながら売上一〇五ユーロを寄付する事ができました。自分の力が尽きた時に働かれる不思議な力を強く受け止めることのできた大切な今年の二つの出来事でした。来た年も皆様のご健康を祈ります。



シユミット亜弥子
ウクライナでの戦争がまだ続いている上にガザでも戦争が起こりました。ニュースでは毎日報道されています。イスラエルのパレスチナ地区はイエスの誕生地ベツレヘムがあります。その地方では一神教の三つの宗教が、安息日をそれぞれ金、土、日と認め合い仲良く生活していた時期もあったのではないかと思えます。ウクライナの子供がニコラウスタークに物ではなく、戦争が終わることを望むと願う事に書いたと言っニュースを聞きました。希望を持って平和を祈ります。

橋本和歌子
二〇二三年を振り返ると、自分の人生の道はそんなに平坦ではないですが、どんな時も私はひたすらに信仰の道をしつかりと歩きました。なぜなら、この道に希望があるからです。私達に与えられた聖霊によって、神の愛が私達の心に注がれるからです。茨道を体験したからこそ、神様からの恵みと導きをよりいっそう大切にしていきたいです。微小な且つ罪深い私は、今年も聖なる偉大な神様の慈愛と寛容に包まれ、心がより強く健康に成長しました。神様、ありがとうございます！

藤井隼人・弘子
皆様、お元気でアドヴェントの時をお過ごしのことと思います。私達は健康的には守られておりますが、今年に入って、私達の滞独五二年の中で最も困難な事件に遭遇し、疲労困憊の日々を過ごして来ました。月報紙面をお借りしてこの件を皆様にご報告させて頂きます。最初に、皆様のご理解が容易になるよう前置きの説明を少し書かせて頂きます。当教会は一九八四年にケルン区裁判所に(公益) 社団法人として登記完了以来、三年に一度税務申告を提出し、その都度公益性認定延長、法人税等の課税免除及び献金(寄付) 証明書発行権限の延長が繰り返されてきました。

ところが、数年前に税務申告手続の全面的コンピュータ化が実施され、何年かの移行措置期間を経て、当教会の場合二〇一八〜二〇二〇年度から紙による税務申告は一切不可となり、その為、税務署のオンラインシステムにアクセスすべく何度も申請手続を繰り返すのですが、納税者の秘密漏洩(無資格者の不正アクセス) 防止のため、オンラインによる暗証番号と教会が登記されている住所宛に郵送されてくる別の暗証番号の二つを入力しなければシステムにアクセスできないため、どうしてもこのシステムが使えず(コロナ禍にて、毎週教会に行くことがなく、郵便物紛失の疑いもあります)、解決策として、税務申告に必要な数字その他の資料はこれまでと同様全て当方で準備した上で、税務署にそれを提出する(オンラインシステムにアクセスする) 部分のみを税理士事務所依頼する(つまり、税理士には、提出する数字等に関する責任を一切負

わせない) という方式を思いつき、やっと紹介された税理士(S氏) に依頼しました。

しかしこのS氏が大変な人物だったことが、後になって判明します。S氏への委任状提出はほぼ二年前の二〇二二年一月二〇日ですが、事務所に電話しても不在、メールにも返信なし、ということは何度催促しても反応が無く、仕方なく今年八月に、別の税理士(Sch 女史。私の娘たちの幼馴染) に事情を説明し、当方が準備した二〇一八〜二〇二〇年度税務申告資料を Sch 女史経由で当教会を管轄するケルン西税務署に提出しました。Sch 女史経由で徐々に分かってきたことは、既に税務当局によって「当教会の公益性が否認され、教会残余財産は全額を他の公益団体に寄付しなければならず、献金証明の発行権限も剥奪された」とのことです。

デュッセルドルフにあるプロテスタント州教会本部に事情を話して助力を請うたところ、Prof. Dr. の肩書のある公認会計士で税理士の資格も持つておられる Vogelbusch 氏(前職はEKD の財務部門の長。母上は私の住む Meesch 氏、父上と姉上は Disseldorf、それぞれ元・現牧師であるとのこと) をご紹介下さったのです。大変驚きつつ早速コンタクトを取って当教会を助けて下さるようお願いしたところ、快諾して頂きました。私が裁判所や税務署から入手した本件に関する数十ページの資料をスキャンして Vogelbusch 氏にお送りして一〇分後ぐらいに返信があり、同氏の手際の良さ、素早さに驚き入りました。

件のS氏相変わらず一切無反応で何もせず、裁判所からの追加情報提出指示にも全く反応せず、当方にも何も尋ねてこなかったのですが、ただ一つ、彼の代理権を当方から即時解除通告する前に、税務署の決定に対して期限内に財政裁判所に訴えを提起してくれており(訴え提起の理由書を提出するようにとの裁判所の再三の指示は完全無視が続いています)、S氏が行った訴え提起の効力は未だ消滅していないことですので、税務署の決定が裁判で覆される可能性は残っています。きつと最善の解決方法が与えられると私達は確信しています。皆様どうぞ祝福に満ちたクリスマスをお迎え下さい。

昨年は一七年ぶりに同じ町内で引越しました。慣れた所を離れるのは名残惜しい面(お隣さん)も嬉しい面(新しい台所・家具)もあります。今のアパートは便利も良く、隣りの教会が窓から見え、鐘も聞こえます。あまりに長閑で、世界のあちこちで大変なことが起こっているのが嘘のようです。世界中に早く平和が訪れ、クリスマス喜びが全てのの人に届きますように切に祈ります。

藤井千恵

アドヴェント前日、あるトリオコンサートに招かれました。演奏者は四年前ある音楽コンクールで伴奏した兄弟妹でした。兄のピアノ奏者とはのちにコンサート活動を共にしたのですが、他の二人は拠点をミュンヘンに移したと同時に音信不通。あの頃十代だった三人が五十代、六十代となり、どんな演奏をするのだろうかと興味津々でしたが、包み込むような温かい音色、余裕あるテクニク、彼らの素晴らしい成長をみる事ができました。それと同時に走馬灯のように、彼ら家族との思い出が頭の中を駆け巡り目頭が熱くなりました。ドイツへ来たばかりで心細い時でした。片言のドイツ語しか話せない私をいつでも暖かく迎えてくれました。

外間久美子

来秋の本帰国を決心したばかりの今、最後の年に彼ら兄弟妹に会え、彼らの演奏を聴く機会に恵まれたことに感動を覚えました。感謝！私にとっておそらく最後となるドイツのクリスマス、その輝く星たちを見ながら、ふと大好きな母も逝ってしまっただけで、そして、私は大好きなドイツからも去ろうとしているのか・・・と自問していた。しかし、もう揺らぎません。これが私に与えられた最善な道と信じて進みます。良き年を！

Ich wünsche mir zu Weihnachten keine Geschenke, nur Frieden auf der Welt, Menschlichkeit, Liebe und Gottes Gnade.
クリスマスティーナ ユエン



昨年に続き今年も神さまに感謝でいっぱい的一年でした。娘の和慧が念願だった日本の大学に入学して、学生生活を謳歌していることをドイツから見守っています。

吉丸おと

そんな私は夏に日本へ一時帰国することができ、娘の様子を直に見ることができ、とても安心しました。これは神様が全て守っていてくださったこと、そして、周りの方々の助けがあったからこそと感謝しています。これからも神様に導かれながら親子共々其々の地で歩んで参りたいと思っています。

◆ 報告 ◆

◇九月二十五日(日) 一八時より、外国語教会主催による夕礼拝がアントニア教会にて開催され、牧師、他三名が参加し、日本の讚美歌を賛美する奉仕をしました。

◇一〇月一六日(日)、礼拝後スカイプにて、教会の将来についての第三回目の懇談会を行い、これからの方向性に関して具体的に一つひとつが示されてきました。

◇一〇月二〇日〜二二日 フランクフルト福音キリスト教会の修養会に佐々木牧師と他二名の姉妹が参加し、今後の教会の指針にもなりました。

◇一月一日(祝日) 蚤の市を開催し、二千五百ユーロあまりを Bot für die Welt に献金しました。

◇一月五日 ボンハッファー教会との合同礼拝。聖書の食事の時を持ちました。

◇一月八日〜一日、南ドイツにおける欧州教職者研修会に佐々木牧師が参加しました。

◇一月一九日、教会創立記念礼拝をお捧げしました。

◇佐々木牧師の外部奉仕
一月二二日、バルセロナ聖書を読む会での Zoom による説教
ブリュッセル日本語キリスト教会への説教奉仕
一月二六日 ファミリー礼拝
一月二四日クリスマス礼拝

◇二〇二四年から、牧師の学びをしている金聖恩姉が月に一回、礼拝にてメッセージを執り継ぐことになりました。



2023年12月17日ページェント礼拝
四年振りに再開しました。ブリュッセルの教会から7名がいらっしやり、一緒に礼拝をお捧げすることができました。
礼拝後は、祝会も開かれお楽しみの5€プレゼント交換も楽しく行われ感謝します。

◆ お知らせ ◆
二〇二四年新年礼拝(会堂・スカイプ)・祝会
日時 一月七日(日) 一四時〜

◆ 予告 ◆

◇一月二八日 教会定期総会 会堂&スカイプ
一〇時〜一時スカイプにて

◆ 編集後記 ◆

今年、コロナ禍のこともすっかり忘れて、クリスマス礼拝や祝会を以前のように再開することでき、喜びを分かち合いました。その一方でイエスさまがお生まれになった地では悲しい争いが続いており、手放しでは喜べないものがあります。来年こそは主にある平和が訪れるようにと切に祈るものです。(佐々木良子)

発行：ケルン・ボン日本語キリスト教会役員会
Japanische Evangelische Gemeinde
Köln/Bonn e.V.
<主日公同礼拝>
会場：Dietrich Bonhoeffer Kirche
住所：An der Decksteiner Mühle 1 / 50935
Köln (Lindenthal) Germany
電話：0221-430319 (礼拝前後のみ)
時間：毎週日曜日 14:00-15:00
<牧師>佐々木良子 (PfarrerIn Ryoko Sasaki)
牧師宅：Breslauer Str.26, 50858 Köln
固定電話：02234-9298792
携帯電話 0151-2910-6278
E-mail r310130s@gmail.com
<ホームページ>http://koelnbonn.jp/
<振込み口座>
IBAN: DE97 3601 0043 0587 6034 38
BIC: PBNKDEFF